

旧社号 子安大明神

子安神社





子安神社 由緒

語り伝えられているところによると、仁徳天皇の御世（五世紀中頃）、子安の地に人々が住み始めた頃に創建されたという。

主祭神は「木花開耶姫命」このはなさくやひめのみこと、それに「瓊瓊杵命」にぎのみこと」を祀る。

神社固有の文書は罹災したため、現在残されているのは明治以降の文書のみであるが、中世、子安村が対岸の称名寺の寺領であったために、「金沢文庫文書」の「平盛義代貞安打渡状」元徳二年（一一三三）の文中に子安村に神田・神品のあることが記述されている。

また、子安神社明細帳（明治三五年一月調べ）によると、応永一五年（一四〇八）に本殿改築、代々の領主地頭より初穂米奉納とある。従って、創建はおよそ七〇〇年以前と考えられる。

子安神社は明治以前は「子安大明神」こやすだいまようじん、または「子安産大明神」こやすあんざんだいまようじんと呼ばれ、祭神に因み安産の神として崇敬され、西上総の各村々に子安講という講社を持ち、広範な地域の人々に信仰されていた。

明治新政府の神仏分離令により子安神社と改称し、村社となる。

明治四二年（一九〇九）二月、日枝神社（字池淵九九〇番地）及び八幡神社（字池淵一〇二四番地）を合祀した。昭和六三年（一九八八）九月に神明神社（字西二三五番地）及び熊野神社（字上ノ台一〇七四番地）を合祀した。

現在、境内には富士講の石碑、八幡神社、熊野神社、それに正一位稲荷が祀られている。現在の社殿（建築面積約二二〇㎡）は神社所有地、共有地、住民の寄進などを財源に、昭和六一年（一九八六）五月五日に竣工、社務所（建築面積約八六㎡）は同年一二月竣工した。

子安神社の祝詞

伝えられている版木から刷られた
主祭神「木花開耶姫命」の尊像



拜子安神社詞

上總國周准郡子安村乃下津盤根
宮柱太知立高天原 千木高知

望大神乃分魂乎曉與玉是乃真奈
許止乃道而神習授賜思慮乃
彌達久知恵乃海乃彌深久與君與

是乃神林爾招奉里令坐奉理日
異再稱辭克奉如伊勢兩宮乃大神

開會給爾畏美畏白祭
拜家之神棚詞

是乃神末爾招奉里令坐奉理日
異再稱辭克奉如伊勢兩宮乃大神

是乃神末爾招奉里令坐奉理日
異再稱辭克奉如伊勢兩宮乃大神

是乃神末爾招奉里令坐奉理日
異再稱辭克奉如伊勢兩宮乃大神

是乃神末爾招奉里令坐奉理日
異再稱辭克奉如伊勢兩宮乃大神

是乃神末爾招奉里令坐奉理日
異再稱辭克奉如伊勢兩宮乃大神

是乃神末爾招奉里令坐奉理日
異再稱辭克奉如伊勢兩宮乃大神

是乃神末爾招奉里令坐奉理日
異再稱辭克奉如伊勢兩宮乃大神

明治十六年十二月一日 夜權危許
同十七年二月一日 既婚危許
上總國周准郡子安村
安産守護大神
子安神社
神官
子安廣成
石印 廣成

主祭神

「木花開耶姫命」(このはなさくやひめのみこと)

大山祇神(おおやまつみのかみ)の娘で天孫・瓊瓊杵命(にぎのみこと)の妃となり、火中で火闌降命(ほすそりのみこと)、彦火火出見尊(ひこほほのみこと)、火明命(ほあかりのみこと)の三皇子を御生みになられ、容色婉美であられたので、この御名があるという。古来から女性の鑑として讃えられている神。

祭神

「瓊瓊杵命」(にぎのみこと)

天照大神(あまてらすおおみかみ)の孫で、天照大神の命により高天原から筑紫の日向の高千穂の峰に降臨し、国土を統治したと伝えられている神。

元禄一五年(一七〇二)三月に奉納された手水舎



八幡神社



文久三年(一八五三)六月に建立された富士講の石碑



正一位稲荷



熊野神社

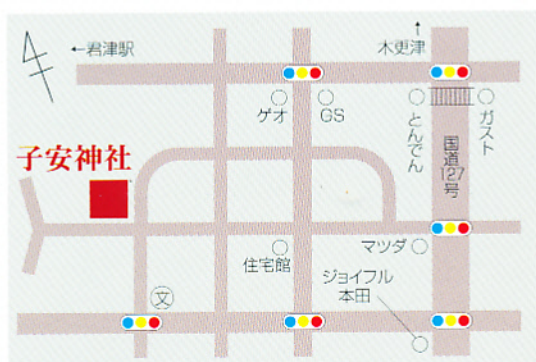




節分祭

年間行事

1月1日	元旦祭
1月27日	湯立祭
2月3日	節分祭
5月5日	竣工記念祭
9月27日	例大祭
旧9月26日	おこもり祭
11月15日	七五三
12月31日	越年祭



子安神社

君津市南子安3丁目18番10号

電話 0439-52-7515

発行・平成22年(2010)6月吉日